

点での支援が十分とはいえない。また、すでに述べたように発達障害の二次障害の症状と情緒障害の症状は併存することも多いことから、関連性を踏まえた視点で検討することとする。

Ⅱ 目的

本研究では、発達障害の二次障害についての現状と課題を把握し、その予防的対応について考察することを目的としている。発達障害の二次障害の症状には、情緒障害の状態と同様の症状を示すことがあり、また、例えば選択性かん黙等の情緒障害の状態像を示す子どもたちの中には、発達障害が背景にある場合も多いと指摘されていることから、発達障害の併存障害として情緒障害をどう捉えればよいのか、その関連性を踏まえた視点で検討する必要がある。

Ⅲ 方法

文献等による概念の整理、先行研究等のレビューをもとに、3つの調査研究を実施した。

1. 「二次障害」「情緒障害」の概念の整理

「二次障害」「情緒障害」という用語は、明確には定義づけられていないことから、医療、福祉、教育関係の定義・概念及び用語の使い方について調べるとともに、本研究における位置づけを整理する。

2. 発達障害の二次障害、情緒障害に関する先行研究等のレビュー

先行研究、文献、資料等のレビューから、発達障害の二次障害、情緒障害について、概観する。

- (1) 個人の問題と環境との相互作用について
- (2) 発達障害と不登校、ひきこもり
- (3) 行動問題と生徒指導の視点から
- (4) 特別支援学校(病弱)及び情緒障害児短期治療施設における発達障害

3. 調査研究

調査1 自閉症・情緒障害特別支援学級における実態調査

在籍児童生徒について、発達障害の二次障害及び情緒障害に関する症状についての調査票を作成し、その実態及び課題と対応についての現状把握を行う。

調査2 発達障害のある子どもの保護者アンケート調査

発達障害を対象とする通級指導教室の利用経験のある発達障害児・者の保護者にアンケート調査を行い、保護者の捉えと現状の課題を把握する。